

## 美佐野ハナノキ湿地群の価値について

2023.11.19 富田啓介（愛知学院大学教養部）

美佐野ハナノキ湿地群\*は、以下のような多岐にわたる価値を有している。また、それらの価値は場所性と歴史性を帯びている。つまり、湿地群が持続的に美佐野という場に存在し続けたことに基づく価値であるため、他の地域に移転したり、消滅した後で短時間のうちに再生させたりすることはできない。

※ここでは、谷底部の湿潤地だけでなく、それらの集水域である押山川と木屋洞川に挟まれた丘陵地一体を指す。

### 1. 希少な生物の生息地としての価値

- ・80 個体以上のハナノキ（東海丘陵要素・環境省 RL 記載種）成木が、2ha 以上にわたり生育。この規模は全生育地の中でも最上位クラス。自律的な実生更新も確認される。また、東濃東部と異なる多様な遺伝的タイプが存在する可能性があり、本種の遺伝的多様性の要となる地域である。
- ・シデコブシ・ミカワバイケイソウ・クロミノニシゴリ等の東海丘陵要素、ミゾゴイ・サシバ・グンバイトンボ・ギフチョウなど RL 記載種、マルバノキ等の地域を特徴づける種の集中するハビタットである。
- ・その背景として、水文・地形・地質といった物理的環境の特質から湧水が生じやすく、比較的健全な状態で維持された個々の湧水湿地が一带に広く分布していることが挙げられる。個々の生物種の存在というよりも、その存在を持続させてきた環境があることが重要である。

### 2. 生活環境に安全・安心・快適をもたらす価値

- ・下流に御嵩町・可児市の中心市街地を控える可児川源流域の一つであり、上之郷地区にとっては直接の後背地となる。これらの地域に対し、健全な森林生態系と湿地生態系の存在によって、河川水質の維持、流出量の調整による出水の軽減、斜面災害の防止に寄与している。
- ・湿地群からの湧水を生活用水として使用しているケースもある。森林の存在は、気候を緩和し、前縁にある集落や農地と相まって美しい景観を形成している。

### 3. 地域の紐帯を醸成した歴史的価値

- ・かつてはハラヤマと呼ばれた入会（共有地）で、肥料用の採草や薪炭の採取が行われていた。昭和初期にはマツタケ山やカスミ網の猟場としての利用、湿地での薬草採取もあった。土岐の窯場で出荷する割り木の生産も行われ、美佐野一帯の生活を支えていた。地域の歴史的背景を理解するうえで重要な場である。
- ・湿地群と周辺山林は周辺集落に実利をもたらすだけでなく、利用行動を通じて地域の紐帯を醸成していると推察される。この点で、上之郷地域のアイデンティティの重要な部分を担っていると考えられる。

### 4. 文化・教育活動の泉源としての潜在的価値

- ・模式的で良好な湧水湿地生態系と、そこに生育する特有の動植物は、学術研究のフィールドや、学校教育・社会教育（自然観察など）の場としての潜在性を有している。また、それらの保全を通じた社会活動の実践地、生きがい/健康づくりの場としての可能性も持っている。
- ・上述した農村景観や、開花期・紅葉期のハナノキやシデコブシの創り出す風景は、潜在的に観光上の価値も有する。見学者向けの整備を実施し、周辺の観光施設や史跡と組み合わせた見学コースを設置するといった工夫で、名古屋都市圏からの訪問者による、地域経済活性化をもたらす可能性も持つ。